（0000）地下水・土壌汚染とその防止対策に関する研究集会の原稿執筆要領

○地盤三郎1・水環境次郎2・廃棄物花子1

1土壌環境センター・2○○大学

1.　はじめに

原稿は詳細データーや結果、結論などを紹介し、データーベースとして関係者に活用していただくために作成するものです。

原稿はPDF形式でCD化されます。A4用紙2～6ページにまとめてください。ワードプロセッサーを使用し、A4判（白色、縦おき）で作成して下さい。なお、電子ファイルの容量は1.5MB以内とします。

2.　原稿枚数

2～6ページ（厳守）とします。

原稿の文字は黒色としますが、図・表・写真等については色の制限はありません。

3.　発表演題のレイアウトとフォント

**原稿書式の雛形**

**＊本紙は、「原稿執筆要領」に従った書式の参考資料です。**

**＊この部分は削除して、原稿作成時に本紙に沿って上書きする等活用下さい。**

3.1　題目

全角で第１行から書き始めてください。複数行になっても構いません。文字はMSゴシック体、12ポイントとします。

題目には送付された発表申込受理のはがきに記載されている受付番号（4桁半角数字）をつけ、題目の中心が行の中心にくるように調整してください。

なお、受付番号は事務手続き上の仮番号であり発表番号ではありません。プログラム決定後、事務局にて発表番号に変更いたします。

3.2　執筆者氏名と所属

題目を書いた次の1行は空白とし、その次の行に氏名を、さらにその次の行に所属を記載し、所属が複数機関になる場合は、氏名の右肩および所属の左肩に上付き文字の数字で記すことにより分類してください。所属は、“○○大学”“○○株式会社”のように大学名のみ、企業名のみの形式で簡潔に記載してください。

口頭発表者の氏名の前に○印をつけてください。

4.　原稿本文

4.1　本文

執筆者氏名と所属を書いた次の1行は空白とし、その次の行から書き始めてください。なお、日本語はMS明朝体、英数字はTimes New Roman体、10ポイント、1ページの文字数・行数は49字（全角）×50行を標準とし、上下左右余白を20 mmとしてください。

句読点は、「、」と「。」を用いてください。

文体は口語常態（である体）、現代かなづかいを用いてください。漢字は原則として、当用漢字を使用してください（固有名詞や広く用いられている慣用の語はこの限りではありません）。

文中の外国語はできるだけ避けてください（生物の学名、適当な訳語がない述語、固有名詞などはこの限りではありません）。

段落番号および章節タイトルは執筆例を参考とし、MSゴシック、10 ptで記載してください。

4.2　図表・写真

適切な位置に配置挿入してください。なお、図表及び写真はカラーでも構いません。PDF形式の電子ファイルで鮮明になっていること必ずご確認ください。表中の数字は小数点の位置をそろえてください。

4.3　英文題目・氏名・所属ならびに連絡先の記載

1ページ目下段に線を引いて、その下に題目と執筆者と所属を英文で記し、さらにその下に連絡先を記してください。（順序は日本語記載と同一としてください。）

日本語はMS明朝体、英数字はTimes New Roman体、10ポイントとします。

Paper preparation guidelines for Symposium

Saburo Jiban1, Jiro Mizukankyo2, and Hanako Haikibutsu1 (1GEPC, 2○○University)

連絡先：〒102-0083　東京都千代田区麹町4-5　（一社）土壌環境センター

TEL 03-5215-5955　FAX 03-5215-5954　E-mail info@gepc.or.jp

4.4　単位系

単位系は原則として国際単位系（SI）を用いる。

①　数値と単位記号の間はスペース（半角１文字）をとる。例：36 mg/L

②　％や℃などの全角文字に対してはスペースをとらない。

③　リットルはSI単位ではないが、単位記号Lを用いること。

④　単位記号ppmは原則としては用いない。mg/Lなどを用いる。例外：ガス濃度。

⑤　トンはcgs単位であるが用いることも可とする。単位記号はtを用いる。ただし厳密に数値を扱う場合には103 kgを用いる。

⑥　時間の単位は秒であるが分、時間、日を用いることも可とする。単位記号はそれぞれs、min、h、dを用いる。

⑦　変数は斜体で表す。例：*L = D / Pa*

4.5　表・図

表・図は文章と対応するものを見やすいように作成し、文章の記載箇所の近傍に挿入してください。

挿入方法は、ページの右半分、もしくは左半分を使用することが望ましいが、表・図の大きさに応じて適宜挿入してください。なお、図には凡例を忘れずに入れてください。

表－１　表の標題は表の上に置く

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 物質 | 初期濃度(mg/L) | 土壌環境基準(mg/L) |
| 六価クロム | 11.1 | 0.05以下 |
| 鉛 | 0.72 | 0.01以下 |
| 砒素 | 0.36 | 0.01以下 |

図－12　図の標題は図の下に置く（写真も下に標題を）

5.　参考文献等

5.1　表示方法

参考文献は、出現順に番号を振り、その引用箇所で1)上付き右括弧付き数字で指示する。2つ以上の文献を引用している場合は、1,5)ではなく、1), 5)のように記載してください。

参考文献は、その全てを原稿の末尾にまとめてリストとして示し、脚注にはしない。

5.2　フォント

日本語はMS明朝体、英数字はTimes New Roman体、10ポイントとします。

5.3　記載注意事項

著者名と著者名の間はカンマでつなぎ、著者数が多くとも参考文献リストには全ての著者名を記載してください。英文の雑誌の場合は、姓、イニシャルとします。発行年は西暦で表記してください。

発行年と論文名の間にはコロンを入れ、論文名、雑誌名、巻号、ページはカンマでつないでください。

なお、雑誌の巻、号、ページの記載方法は学会などにより異なるので、慣れた標記方法で構いません。

5.4　記載例

1) 地下水花子(2009)：報文・事例紹介の原稿作成例, 土壌環境センター技術ニュース, No.1, pp.23~45.

6.　最終頁

謝辞を記載する場合は簡潔に研究費の助成などを記載するにとどめてください。